Voice ジュビリー 50

母校の皇寿（111周年）をともに祝う

本年６月１日（木）の本学創立111周年記念式典および祝賀会に，卒後50周年と25周年の校友が大学から招待を受けて参列しました。３年前に大学と校友会のコラボで創立記念式典特別参列制度（ジュビリー 5025）が創設されたからです。初めて聞く「ジュビリー」を，念のためネット検索すると，ユダヤ教で25または50年に１度の周期で行われる記念日・祝祭とありました。

生命歯学部８階の富士見ホールにて開催されました。１階受付では，笑顔の女性に赤いリボンを胸につけてもらい，jubilee 50と金色に刻印された桐の箱に入った校章と図書券および50年前の卒業時の日本歯科大学新聞のコピー等の配布物もいただきました。大学側のウエルカムの強い姿勢が素直に伝わって来ました。式典は，厳粛な伝統的神事で始まり，挨拶，名誉博士号授与，永年勤続者表彰と式次第に沿って行われました。ユダヤ教のジュビリーが祝賀されるのも実に大らかで母校の校風を感じました。なによりも印象深かったのは，中原 泉 理事長・学長の式辞でした。満を持して語られた内容は，創立111周年の記念式典の参列者だけが，知ることとなる先人の秘話でした。これ以上の“おもてなし”はありません。

要約しますと，校友会では古い記録から埋もれた創立者の史実を探し出し2014年６月に「考証 中原市五郎史伝」が出版され，その後も史実の発掘は継続され最近になって，新たな逸話が見つかりました。私の知る中原市五郎先生は，日本歯科医学校を創立されたところから始まっています。物語はそれ以前で，明治21年に麹町に中原歯科医院を開業されてから10年ほど経過して，近くに内科診療所を開業された日本で22人目の女医さんが通院するようになりました。

執務中の中原市五郎先生

女医さんは，その間に後の東京女子医科大学を創立されました。市五郎先生は来院時に彼女から学校経営の大変さを嫌というほど聞かされましたが，それがモチベーションとなりました。明治39年に歯科医師法が公布されましたが，正規の歯科医学校は一校もなく，それを憂いて明治40年６月，先生40歳の時に共立歯科医学校を創立されました。もし先生が開業医でなかったなら出会いも交流もなく，果たして日本の歯科教育の歴史はどうなっていたでしょうか。最後に，中原学長は，「今日の創立記念日に先生方に最初にご報告できたことを嬉しく存じます」と結ばれました。

次に近藤勝洪校友会会長の式辞では，本学は111年の中で歯科界に多くの人材を輩出してきましたし，これからも歴史的使命を持って歯科界に人材を輩出し続けなければいけないと思っており，今後も母校の発展をともに見守っていただき大学を支援し，発展することを願っていますと力説されました。

式典終了後，ホテル・グランドパレスに移動し和やかな雰囲気の中で祝賀会が盛大に行われました。閉会前にゴールドジュビリアンを代表して平賀元仁君が，お先に謝辞を述べた後，中原学長に56回卒有志93名から寄せられた浄財を日本歯科大学奨学基金として寄付し，次いで同級生の町田裕子さんから，父君が今から80年ほど前に撮影したセピア色の写真アルバムを贈呈しました。

写真は，111周年の今年に入り，家の工事の際に永い眠りから覚めて姿を現しました。市五郎先生の逸話とともに奇遇と言う他ありません。父君は25回卒で2.26事件の頃に大学生活を送っていて，写真部に所属していました。当時も今と変わらぬ部活動があり陸上，弓道，テニス等々や今ではＮＧの解剖実習の生々しい写真など大学の活動風景が克明に記録されていました。その中に，中原市五郎先生の執務中のスナップ写真もあり，銅像でしか知らない歴史上の人物として坂本龍馬や福沢諭吉と同列に理解していただけに感動も一入でした。

中原学長が新潟生命歯学部にある「医の博物館」に置かせて貰いますと快く受け取ってくださいました。ジュビリー 5025は，本当に素晴らしい企画です。思い出深いものとなり，これから適齢期を迎える校友は是非ともご参加ください。

（川原英明・56回記）